

(別記様式)

平成31年度府立北桑田高等学校美山分校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン)

(計画段階)

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
1 時勢の変化と教育に対する社会的ニーズの推移に対応し、専門教科・普通教科の学習を通して、基礎学力及び進路目標に応じた学力・能力を身につける。 2 働きながら学ぶことを基本とし、規則正しい生活習慣と生きる力の充実を図る。 3 特別活動等を通して地域とかかわり、地域後継者の育成と地域文化を支える豊かな心の育成を図る。	[成果] ・基礎基本の定着に重点を置いた授業展開ができた。 ・多様な生徒に対し、家庭との連携を密に図り、個々に対応した支援・指導に努めることができた。 ・学び直し学習の充実が図れた。 ・実践を重視した専門教育の充実が図れた。 [課題] ・生徒個々に応じた学習支援の充実を図る。 ・日常的な学習指導の中でSSTの充実を図る。 ・美山分校の教育内容の広報活動の充実を図る。 ・地域の中で魅力を発揮できるよう、広報・情報発信を含め地域と連携した取組を行う。	1 教材や指導方法の工夫改善により、基礎・基本の充実を図る。 2 農業科と家政科の連携した取り組みを積極的に推進する。 3 個々の教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を行い、希望進路実現を図る。 4 生徒全員の就労を実現し、定時制教育を充実させる。 5 新学習指導要領や学校の特色化に対応した教育課程を作成する。 6 広報活動を積極的に行い、地域と連携し、外から見える学校づくりを進める。 7 地域との連携を深め、地域の力を活用した学校づくりを推進する。 8 安心安全な学校づくりを進める。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営□	教職員の資質・能力の向上を図る	校内外での研修へ積極的に参加し、自己の課題を明確にし教育力向上に努める。		
		教育実践の成果と課題を、日常的に交流し、指導の充実につなげる。		
		身近な物の整理整頓から安全確保の推進につなげる。		
教育課程□	組織的な指導体制の確立する	情報共有を積極的に行い、分掌間や担当者間、管理職等との日常的、継続的な連携を大切にする。		
		全ての教育活動における組織的・計画的な実践の推進する。		
		学科に応じた特色ある教育課程の編成		
教科指導□	学校の特色を生かした教育課程の編成	生徒の基礎学力の定着を可能にする教育課程の編成		
		生徒の進路実現に向けた教育課程の編成		
		新学習指導要領に則した教育課程の編成		
特別活動□	新学習指導要領に則した教育課程の編成	新学習指導要領に対応した教育課程を編成する。		
		各教科の目標を明確にして、計画的な指導を実践する。		
		個々の生徒の学力を充実させる。		
進路指導部□	計画的で充実したホームルーム活動を実施する	シラバスにおいて年間計画を提示し、それに基づいた計画的な指導を行う。		
		授業公開を通して、授業改善を図る。		
		学期ごとの年間指導計画の点検と見直しを行う。		
進路指導部□	個々の生徒の学力を充実させる。	個々の生徒の学力、理解の程度等を把握しての指導を行う。		
		学習習慣の確立や基礎事項の反復等、学力の充実のための手立てを講じ		
		4年間を見通したホームルーム活動の指導計画を作成する。		
進路指導部□	創意工夫した学校行事に取り組む	学年団で連携を密にしホームルーム経営の改善・工夫に努める。		
		各学年ごとの適切なホームルーム内容になるよう努める。		
		文化祭の成功のため生徒会を中心に全校を挙げた取り組みを行う。		
進路指導部□	自主的な生徒会活動を目指す	様々な学校行事の主役は生徒であるとの認識を基本に指導する。		
		生徒会活動を通して自主的に何事にも取り組む力を付けさせる。		
		就労の実態を把握し、不就労生徒への援助・指導を継続する。		
進路指導部□	「働きながら学ぶ」を実現できるように指導する。	就労先との連携を密にする。		
		3年次より希望進路の把握と指導を強化し、個々の指導を充実する。		
		又、支援を受ける生徒の進路指導等と、又、支援機関と連携し保護者と共に進めたい。		
進路指導部□	能力と適性を把握して進路実現を目指す意欲を育む。	生徒個々に対応した求人の開拓・確保に努める。		

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
生徒指導□	問題事象の発生を未然に防いだり、早期に発見ができる体制を構築する。	アンケートの実施や日常的な目配りを心がけ、生徒の状況把握に努める。			
		各分掌、教職員との効果的な連携を進め、問題事象の予防や早期発見に努める。			
		地域や関係機関とも連携しながら、問題事象に適切に対処するよう努める。			
		相手を思いやる気持ちを育て、信頼に基づく人間関係を築くように指導する。			
人権教育□	互いの個性や価値観の違いを認め、自己を尊重し、他者を尊重する感性と、主体的に考え、解決しようとする態度・能力を育成する	いじめなど、他人を傷つける言動は絶対に許さないと強い指導を行う。			
		あいさつの励行、適切な言葉づかいや身だしなみを指導する。			
		文化的な教養を深めるような行事等により、豊かな人間性を育む。			
		困難な条件を持つ生徒の社会的自立にむけた支援のための学習を計画的、組織的に実施する。			
研究・研修□	教科指導・生徒指導の資質向上に努める。	全ての生徒に人権問題についての理解や認識する力をつけ、実践的態度を育てる学習を行う。			
		人権教育の科学的認識を系統的に育てるため教科学習の指導を充実させる。			
		人権教育について、教職員の指導力を高める取り組みを行う。			
		学校の課題に合わせた校内研修を行い、指導力の向上を目指す。			
健康・安全教育	自らの健康管理能力を高める課題を持つ生徒の支援を図る	定通研の成功に尽力し、教職員の資質向上に貢献する。			
		外部での公開授業、各種研修会へ、積極的に参加する。			
		生徒一人一人に時間をかけ丁寧に対応する中で、自分の言葉で自分の生活やからだに語れる力をつける。			
		生徒の特性を理解し、適切な支援が出来るように関係機関及び保護者と連携を大切にする。			
施設・設備管理	施設・設備の点検を行い、安全管理を徹底する	一般施設・設備及び防災施設・設備の日常点検・定期点検を実施する。			
		防災教育等防災教育を計画的に進める。			
		教育環境の改善と安全管理の徹底を図る。			
農場部□	農業に関する専門知識や技術の学習を通して、生きる力を身に付ける	実習を中心とした体験的、実践的な授業を展開する。			
		チームワーク・コミュニケーション・プレゼンテーションの力を付ける。			
		学年ごとの生徒の実態に応じた学習内容を検討し、指導方法の工夫をする。			
		地域との連携を推進し、地域に貢献する意欲と能力を育て			
家政科□	家庭生活に関する知識・技術の習得と主体的・実践的な態度を養う	農業クラブ活動を活発なものにする。			
		農場生産物の販売を積極的に行い地域からの評価を得る。			
		生徒の実態に合った学習効果に結びつく適切な学習教材を工夫する			
		実践的・体験的な学習の機会を多く持つ			
第1学年部□	家庭生活に関する知識・技術の習得と主体的・実践的な態度を養う	生徒個々の実態に応じて適切な時期に補習等を行い、達成感を得られるようにする			
		学習したことを生かし、自分や地域の暮らしをより良くしていく意識を育てる			
		地域の保育所や包括センターとの交流や外部講師のよる直接指導等、より専門的な学びの機会を設定する			
		4年間の学びの集大成として、各自が決めたテーマをより深く研究し発表する。			
第2学年部□	高校生としての自覚を持たせることを重点とし、基本的な生活習慣・態度・マナー・基礎学力の定着を目指す	授業に集中できるよう学習環境を整える。			
		自分の責任で行動をするという意識を持たせる。			
		他人を思いやる気持ちを育む学級運営をする。			
		H R活動・学校行事に積極的に参加できるように働きかける。			
第2学年部□	目標に向かって、見通しを持って行動できる力を伸ばす 周りの人とのかわりを大切に し、協力し合うことを通して、互いに高められるようにする	与えられたことをこなすだけでなく、自ら学ぶ態度を育てる。			
		自分のことだけでなく、他人を思いやる気持ちを育み、協力して物事に取り			
		H R活動・学校行事に積極的に取り組ませるよう工夫する。			
		自分の目標を設定し、見通しを持って行動できるように指導する。			

(別記様式)

評価領域	重点目標	具 体 的 方 策	評 価			成 果 と 課 題	
第 3 学年部	学校の一員としての自覚を持たせ、各自の特性を生かしながらそれぞれの力を発揮できる場を増やす	集団の一員であることの自覚を促し、各自の行動に責任を持つよう指導する					
		クラスメイトそれぞれの特性を理解し、それぞれが活躍できる場を設ける。					
	卒業後の進路実現を見据え、自己理解を深めるとともに自律的な行動ができるようにする	学校行事等に積極的に取り組み、小さな成功体験を積み重ねることで自信につなぐ指導を行う。					
		生徒が自分の興味関心の方向性や能力を理解し、進路選択につなげることができる進路指導を行う。					
第 4 学年部	自発的に学ぶ姿勢を持ち、それぞれの進路実現を目指す	現在の自分の行動が将来につながることを理解し、自律的な行動を心がけるように指導する。					
		将来に明確な指針を持てるように社会について学ぶ機会を持たせる。					
	人との関わりや学びを通して、よりよい人格の形成を目指す	自分を見つめ、自分の能力に応じた目標を定め、進路実現できるよう指導する					
		それぞれが希望進路を実現できるよう、社会に出ることを意識し、自発的に学ぶ姿勢を持つよう指導する。					
国語科	生徒一人ひとりの実態に応じた課題を設定し、言葉の使用者としての基礎学力の向上を図る	社会人としてのルールやマナーを身につけ、人間性に磨きをかけられるよう指導する。					
		最高学年として、後輩達の手本となり、学校全体を見られるような力をつける。					
		個々の生徒の実態に応じた学習内容を検討し、指導方法の工夫をする。					
		話す・聞く・読む・書く学習をバランス良く行う。					
数学科	生徒一人一人の学びや考え方を尊重しながら、基礎学力の向上を目指す	学習に遅れが生じる生徒には、年間を通して補充を行う。					
		様々な文章に触れられるように、読書習慣の定着を図る取り組みをする。					
		授業毎に教科書で必要とされる計算を練習してから授業に入るようにする。					
		1年次は中学との接続に配慮した授業を行う。					
保健体育科	生涯を通じて、継続的に運動できる能力や自らの健康を管理・改善していく資質を育てるとともに、運動技能を高め、健全な心身の発達を目指す	演習や作業の時間を多く取り、受け身にならぬよう配慮する。					
		学習に遅れを生じる生徒には、補充指導を行う。					
		運動に対する知識理解を深めさせる。					
		運動を通じて公正、協力、責任などの態度を育てる。					
英語科	中学校での学習を土台にしながら、多様な言語活動の有機的な関連を図った指導を実施し、実践的コミュニケーション能力を育成する。	教科保健を通じ健康で安全な生活を送るための基盤を培う。					
		教科保健を通じ環境問題・健康問題を解決できる教養を身に付ける。					
		レポート作成を課題とし環境問題や健康にに対する知識理解を深めさせる。					
		聴く、読む、話す、書くという四技能をバランスよく学習させる。					
家庭・地域社会との連携	教育目標の達成を目指して、育友会・各種関係機関等との連携、協力を進める	言語だけでなく、外国の文化についても理解を深める。					
		英語指導助手と連携しながら、充実した英語学習を進める。					
		必修の授業では、基礎力の定着に焦点を当てる。					
		選択の授業では、進路実現も視野に入れ、応用力の伸長を図る。					
学校関係者評価委員会による評価		家庭訪問等により、家庭との丁寧な連携に努める					
		地域の方々や関係諸機関等と連携し、地域に貢献する活動を教育活動に取り入れる					
		美山分校の活動が外から見えるような広報活動を工夫する					
		育友会事業などをはじめとする社会教育を支援する					
次年度に向けた改善の方向性							